

## 学校統廃合の押しつけすぎるな 教育長「地元合意なくとも進める」

鶴岡市議会12月定例会の一般質問で3日、加藤鉦一議員は「学校適正配置第2期計画」について、「住民の合意なくして上からの統廃合を押しつけざるべきではない」と強く求めた。

しかし、難波教育長は「第2期計画では2年間の準備期間を経て、より主導的な立場で平成30年4月には統合を必ず完了する決意である。」「地元における合意確保という過程は設けない。」と答えました。

加藤鉦一議員は、「学校を中心とした地域づくりを進めていくという住民の意思、住民自治がないがしろにされているのか。公務員の最大の使命は住民自治を保障することである。それを壊すことではない。」「と強く訴えました。

### 「行政が一方的に進める性格のものではない」とは言うまでもない（文科省）

加藤鉦一議員は、文 用しました。文科省が2015年1月27日に通知した学校適正配置に関する「新指引」から次のように引



暴風雪警報が出ていた5日の夜11時20分頃、藤島駅前富樫路木から出火した火災は隣家1棟（佐藤貞一さん）に燃え広がり、1800坪先の六所畑の住宅屋根にも飛び火し燃え始めるなど、大風の中で消防団等の懸命の消火活動の末、5時半頃に鎮火しました。近くの住民は「春日での宴会の後、夜9時半頃に近くを通った時に少し焦げ臭い匂いがした。まさか火災になるとは思わなかった」と言っていました。



のもでないことは言うまでもありません。各市町村においては：学校が持つ多様な機能にも留意し、学校教育の直接の受益者である児童生徒の保護者や将来の受益者である就学前の子供の保護者の声を重視しつつ、地域の住民の十分な理解と協力を得るなど『地域とともにある学校づくり』の視点を踏まえた丁寧な議論を行うことが望まれます。（「手引」3ページ）

加藤議員は、「大切なことは地域住民の理解と協力である。地域住民が学校を存続させ、学校を核にして地域づくりを進めていきたいとするならば、その意思を最大限尊重し、スケジュールありきの統廃合の押し付けはしないと明確にするべきだがどうか。」と求めました。

### 参考資料で強制ではない

これに対して教育長

## 私の昭和 ⑩

鈴木重雄（88歳・八色木）

4年生担任・加藤静代（兵右衛門に改名・清川）先生

砂利道を清川から自転車で通勤し、よくパンク修理をしてもらった。体格がよく厳しい先生で、青竹で作った教鞭（きょうべん・むち）で打たれましたが、心は優しい先生であった。教鞭が壊れると、教鞭にお世話になった子どもが作ってくるような言われていた。子どもは喜んで前より立派なものを持ってきた。悪天候の日は学校泊ま

りなので、放課後先生とストーブを囲んで遊んだ。本を読んでくれたり、煙草を買ってくださるよう頼まれたりした。駄賃を貰えるのが嬉しかった。ゴールデンバット（20本入）9銭で1銭が駄賃である。同級生のヒロジ君は家から馬肉を持って来て焼くこともあったが怒られなかった。後年、先生の娘さんが八栄島小に赴任し、長男が3年間担任されたのも奇しき縁である。

は、「この手引の位置づけは、各自治体の主体的な取り組みを総合的に支援する方策の一環として策定されたもので、内容を機械的に適用することは適当でない。学校設置者としての主体的な検討の参考資料とされており、強制力を有するものではない。」と答えました。

### 「小さな学校」ほど教育的

諸外国では「小さな学校」「小さなクラス」ほど、学習意欲や態度が積極的になり、子どもたちの人格形成・人間的成長にとっても効果的であることが実証されています。

### 民主主義を踏みこむのか

しかし、学校統廃合の指針となる通達は過去に2つだけであり（1956年と73年）、今回は42年ぶりとなるものです。

この文章は「新指引」の「学校規模の適正化に関する基本的な考え方」の中で示されたものです。

「行政が一方的に進

日本では逆に、大規模学校における「競争の教育」からの落ちこぼれと格差、「いじめ」などが問題になっており、統廃合の強制は許されません。



